

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	マクロ経済学演習 (Macroeconomics Exercises)					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目/知識定着・確認 型AL
	2037-1-23-089	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目/知識定着・確認 型AL
	2437-1-23-028	専門科目	選択	2単位	2年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
<p>本授業は、ERE（経済学検定試験）の受験に向け、マクロ経済学の知識を深めることを目的とする。ERE（経済学検定試験）は、全国単位で行われており、各自の経済学の習熟度を客観的に知ることができる検定である。近年では、企業が採用の際に、このERE（経済学検定試験）を活用している例もあり、注目度が高まっている検定でもある。</p> <p>本授業では、1年次に学習したマクロ経済学の知識の確認と、ERE（経済学検定試験）などの問題演習を中心に講義を進める。</p>						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
講義形式の授業によるマクロ経済学の知識の確認と、知識の定着を目指した関連分野の問題演習を交えながら授業を進める。各回の授業内容は関連しているため、十分な復習をした上で授業に臨むこと。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の知識を有すること。「ミクロ経済学演習」と共に履修することを推奨する。						
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。						
なし。適宜、資料等のプリントを配布する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
西村和雄・八木尚志（2008）『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版 竹内信仁編著（2013）『スタンダードマクロ経済学』中央経済社 経済法令研究会編『ERE（経済学検定試験）問題集』経済法令研究会						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
昨年度に引き続き、学生諸君が授業内容を理解しやすいように、わかりやすい表現と丁寧な解説を心掛けて授業を行う。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) GDPの基本的な知識について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 (2) 財市場の分析について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 (3) 貨幣市場の分析について理解し、関連する演習問題を解くことができる。 (4) IS-LM分析について理解し、関連する問題を解くことができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	GDPの基本的な知識	GDPの基本的な知識に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で一般的に解くことができる。	GDPの基本的な知識に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	GDPの基本的な知識に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば一般的に解くことができる。	GDPの基本的な知識に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	GDPの基本的な知識に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。
(2)	財市場の分析	財市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で一般的に解くことができる。	財市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を全般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	財市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば一般的に解くことができる。	財市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	財市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。

(3)	貨幣市場の分析	貨幣市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で一般的に解くことができる。	貨幣市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を一般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	貨幣市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば一般的に解くことができる。	貨幣市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	貨幣市場の分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。
(4)	IS-LM 分析	IS-LM 分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題だけでなく、初見の問題も自力で一般的に解くことができる。	IS-LM 分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題を一般的に解くことができ、初見の問題も自力である程度解くことができる。	IS-LM 分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であれば一般的に解くことができる。	IS-LM 分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であればある程度解くことができる。	IS-LM 分析に関連する問題を、授業で説明を受けた類題であっても、ほとんど解くことができない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%				30%		100%
(1) GDP の基本的な知識	17%				7%		24%
(2) 財市場の分析	18%				8%		26%
(3) 貨幣市場の分析	18%				8%		26%
(4) IS-LM 分析	17%				7%		24%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	試験結果の得点分布等を公表する。						

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）
1	オリエンテーション	マクロ経済学の知識の見直し 60分
2	GDP の三面等価	GDP の三面等価の理解 180分
3	GDP の諸概念	GDP の諸概念の理解 180分
4	名目 GDP と実質 GDP	名目 GDP と実質 GDP の理解 180分
5	財市場の分析①（総需要と総供給）	総需要と総供給の理解 180分
6	財市場の分析②（国民所得の決定）	国民所得の決定の仕組みの理解 180分
7	45 度線分析の拡張	45 度線分析の拡張の理解 180分
8	乗数効果	乗数効果の理解 180分
9	貨幣市場の分析①（貨幣需要）	貨幣需要の理解 180分
10	貨幣市場の分析②（貨幣供給）	貨幣供給の理解 180分
11	貨幣市場における金融政策	貨幣市場における金融政策の理解 180分
12	IS-LM 分析①（IS 曲線と LM 曲線）	IS 曲線と LM 曲線の理解 180分
13	IS-LM 分析②（財政政策の効果）	財政政策の効果の理解 180分
14	IS-LM 分析③（金融政策の効果）	金融政策の効果の理解 180分
15	まとめ	各回の講義内容の整理と理解 240分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。各回の授業に対するコメント（感想・質問等）を学生諸君よりもらい、翌週の授業で可能な限りコメントに対する回答を行い、学修効果の向上に活用する。また、時間に余裕があれば、問題演習において、演習問題の解説を適宜学

生諸君にも行ってもらい知識の効率的な習得を目指すために協同学修型 AL も採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性